

おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

—「何度言ったらわかるの？」—

NO. 83



誰でも一度は言われたことがあるのではないですか？小さい頃に親から言われた言葉として？それとも最近ですか？私は最近そんな場面がありました。「何度教えたらわかるの？」と言われたわけじゃないのですが…、きっとそう思われているだろうなあと、自分で感じて落ち込んでしまいました。どうにも苦手なジャンルがあるんですよ。アナログ世代なのでね。何となくわかりますか？そう！それです。説明を聞くと、その時は“なるほど、そうだな”と思うのですが、いざ同じ場面になると、ドキドキして上手くできなかったり、頭が真っ白になっちゃったり。苦手なことを覚えるって本当に大変です。「子ども達も、そんな戸惑いを感じているのかな〜」と思うと、ポンと肩を叩きたくなります。

“言葉がわかる”“話せる”ってどういうことなのでしょうね。言葉がわかるように、話せるようになると、聞く側も言う側もラクになります。だって、何かを伝えるのに言葉ほど便利な飛び道具はありません。そこまで行かなくても、離れたところからでも伝えられる、まさに飛び道具です。言葉で説明するだけで伝わるし、相手が何を考えていて、どうしてほしいのかがわかります。まさに飛び道具です。だから、誰でも言葉がわかるようになり、話せるようになると、そればかり使うようになります。便利なんですから、当たり前です。

でも、まだ言葉がわからない子、話せない子にとっては、言葉だけかけられても、何度言われようとも応えられません。困ってしまうだけです。困った表情をする子もいれば、聞いていないように振舞う子もいますね。「何度言ったらわかるの？」と言われても…、「何度言われてもよくわからないよ」なのでから。

「何を今更そんなこと、わかってますよ」と言われそうですね。でも、この原点が大切なんです。育ちの支援を通じて、日々子どもの姿を見ながら、丁寧に働きかけていく中で、時々この原点に立ち返ることが、その子の立場になって改めて考えていくことになります。

身体を動かすことや生活習慣のことで“できること”が増えてくると、自然と“知っていること”“わかること”が増えていきます。そこに『物の名前』があって、『動きの言葉』や『気持ちの言葉』があって、“こんな時にはこんな言葉が飛び交うんだ”と、何となくわかってきます。“わかること”が増えてくると、興味関心が広がり、また“できること”が増えていきます。できることが増えると、少しずつ遊びが広がってきて、楽しい気持ちが膨らんでいきます。そしてその広がりの中に、誰かがいるようになります。その誰かが自分に何かを伝えてくると、自分も何かを伝えたくなる。そんな気持ちが、やりとりの手段を増やしていきます。それが言葉の源泉です。言葉話すようになってからも、もっと広げ深めていくためには、この過程を繰り返していくことが大切なんです。

私のあの苦手なジャンルなんですけど、シンプルに、わかりやすく、ゆっくり、OKをもらいながら一緒にやってもらえたことで、少し気持ちがラクになり、“もうちょっとやってみようかな”という意欲も出てきました。周りの方々のサポートと思いやりと苦笑いのおかげで、それでも何とかできるようになりました。大変感謝しております。（R5. 4）K

